

附属小 研究だより



豊かな「対話」で広がる創造的な学び(3年次)
～今問い直そう、よい授業を創り出す条件とは～

📖 詳しくは裏面をご覧ください

研究発表会締め切り間近!!

ごあいさつ

平成27年の新しい年を迎えました。いよいよ熊本大学教育学部附属小学校の研究発表会も目前となりました。

「豊かな『対話』で広がる創造的な学び」というテーマでの取り組みも三年目を迎えました。

学びは子どもの側から開始されなければなりません。子どもの素朴な疑問や概念をもとに「創造的な学び」を実現させるためには、まず学習環境のデザインを重視します。次に、教師と子ども、子どもと子ども、子どもと教材との「対話」を重視します。この「対話」を促すために、本校では「根拠—理由づけ—主張」の論理モデルに注目しています。これまでの実践を通して、特に「理由づけ」の質を高めることが「対話」の質を高め、「創造的な学び」を創り出すうえで重要であることがわかってきました。そのためにも、聴き合う関係づくりを大切にしながら、論理的に考え合う関係づくり、「理由づけ」の質を高める授業方略を各教科等で追究していきます。

平成26年度の全国学力・学習状況調査の結果からも「根拠を明らかにして意見を述べる」「必要な情報を取り出し、理由を説明する」といった論理的な思考力には依然として課題が残ることが明らかとなりました。研究発表会では、こうした論理的に考え合う「対話」を通して「創造的な学び」を実現していきたいと思います。午後の講演では、昨年度に引き続き東京大学大学院の秋田喜代美先生にご講演いただきます。

学年末のご多用な時期とは存じますが、多くの先生方にご参加いただき、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

熊本大学教育学部附属小学校 校長 河野 順子

公開授業Ⅰ

9:00 ~ 9:45

国語科 第4学年「ごんぎつね」

読むことの授業をとらえ直す



親の代から読み続けられている教材「ごんぎつね」。味わい深いこの作品を子どもたちは一読してわかったつもりになってしまいます。みんなで読むことで作品の面白さを再認識できる授業を提案します。

(中尾 聡志)

算数科 第1学年「ずをつかって考えよう」
問題解決の授業の在り方とは？



子どもにとって解決しなければならない「問い」があるのが本来の問題解決学習。たとえ計算とひき算において、図を用いる必然性を感じながら「問い」を解決していく授業を提案します。

(水上 洋平)

音楽科 第3学年「くりかえされるせりふの変化のひみつ」
聴く音楽から見える音楽へ



何度も同じ旋律が出てくることが印象的な「ボレロ」。しかし、ただくり返すだけでは魅力的ではないはず。図形論や比較音楽から自分の聴き方を探り、要素の効果や動きが見える授業を提案します。

(合志 るみ子)

体育科 第5学年「アスレチックタイム」
体づくり運動の在り方に一石を投じます



体づくり運動の定番は、多様な場での動きの創作と組み合わせ。しかし、動きそのものが高まることは、あまりありません。よい動きとコツを検討し、動きそのものが向上する授業を提案します。

(豊田 誠一郎)

国語科 第2学年「スーホの白い馬」
スーホと白馬のつながりの強さを読む



「子どもたちが何度も何度も作品の言葉に立ち戻って読み深めていく」そんな授業を願いともしめています。低学年最後の物語教材「スーホの白い馬」。スーホと白馬のつながりを読み深めるための授業方を提案します。

(坂崎 慎太郎)

社会科 第6学年「世界の人々と共に生きる」
国際協力を新たな視点で見よう！



現地の人が持続可能な支援とは？支援＝モノ、金だと安易に考えがちな子ども。現地の人の意識を変えようとするユニセフの事例を取り上げ、開発が進まない世界の現状から新たな国際協力の在り方を探ります。

(西澤 剛)

理科 第3学年「ものの重さ」
ものの重さは形で変わる？



手にのせた時の感じ方の違いから、ものの形を変えると重さが変わるかと考えがちです。ブロックを操作しながら、ブロックの数をもとに、ものの重さについて理解していく授業を提案します。

(岩永 聡)

図画工作科 第6学年「ピクトグラム」
メッセージ性のある形とは



生活の中でよく見かけるピクトグラム。一目で意味が分かる単純な形には、ひみつがあります。そのひみつを追究していく中で、形をじっくり見る視点を創り出していく授業を提案します。

(北野 宏政)

総合 第4学年「どっちにしようかな？」
様々な観点で、メリット・デメリットを明らかに



身近にコンビニを設置するとしたら、あなたはどこに設置しますか？目的や状況を考えて、「自分だったらこう考える。だって…」と様々な観点でメリット・デメリットを明らかにしながら、最善の設置場所を見つけていきます。

(井上 竜作)

よい授業を
創り出す条件とは

研究部長 余宮 忠義



子どもとともに学び、成長し続ける教師を目指す

「知識基盤社会」といわれる今を生きる目の前の子どもたち。あらゆる出来事が予測不可能なこの社会は、我々が経験したことのないほど刻々と変化し続けています。これからの未来を生きる子どもたちには、変化する現実と向き合い、思考し、判断し、行動できる力、すなわち獲得した知識・技能を学校知として閉じこめてしまうのではなく、生活の中で生かしていく力を育てていくことが求められているのです。

このような力の育成には、自分とは違う価値観や考えをもった他者との対話が欠かせません。対話の中で、多様な視点から目の前の現実を「ことば」でとらえ、「ことば」で柔軟に思考し、表現していく態度が必要なのです。しかし、子どもたちそれぞれの考えが絡み合い、練り

上げられていくような授業を創っていくことは、簡単なことではありません。その上、子どもたちの思考はなかなか変わらない……。すでに、子どもたちは自分の世界を生きる「一人の探究者」なのです。

私たちは、子どもたちが、豊かな対話の中で生き生きと「ことば」で表現し合いながら、思考を練り上げていくことに喜びを感じ、学びを深めていくことを願い、日々の実践を行ってきました。特に、授業の中で見られる一人一人の子どもたちならではの「理由づけ」を明らかにし、その質を高めていく対話の在り方を、具体的な各教科等の学びの本質に基づき、検討してきました。

ここに紹介したように本研究発表会では、22の公開授業と19の分科会、さらには全体会でも「1つの授業」をもとに、よりよい授業を求めた研究を深めていきます。授業研究会でも、「授業の実践を根拠に」「それぞれの見方を理由づけしながら、よりよい授業の条件を探る時間にしていきたい」と思っています。「なんとかが課題を解決したい」「相手に自分の考えを伝えたい」など、論理的に思考し、表現する私たちの子どもの姿を多くの先生に見ていただき、ご指導頂ければ幸いです。

理科 第4学年「もののあたたまり方」
どうやってあたたまっているの？



ものを温めると順番に温まっていくと考える子どもたち。では実際に温めてみるとうどうでしょう。観察・実験の結果をもとに、友達と対話しながら自分の考えを見直し、温まり方のひみつを探っていく授業を提案します。

(井上 竜作)

図画工作科 第3学年「絵手紙」
色の変化を考えて表す！



「どうしたら本物そっくりに描けるだろう」と写真的に描くことに興味をも始めている子どもたち。物を立体的に描くには秘密があります。それは色の変化。絵手紙を描く中で、対象物をしっかりと見る視点を創り出していく授業を提案します。

(島崎 桂一郎)

保健・健康教育
健康情報から子どもの今を見つめる



保健室に豊富にある健康情報。どう生かせば、心と体の健康意識が高まるのでしょうか。「保健管理システム」を活用して子どもの「今」を分析し、学校内外へ発信していく方法を具体的に提案します。

(竹口 洋子)

国語科 第5学年「大造じいさんとガン」
「大造じいさんとガン」で何を読むか？



様々な対比構造で書かれた「大造じいさんとガン」のクライマックスを読みます。物語で変化したものとそうでないものを明らかにし、理由を叙述から読み取ることで大造じいさんの心情に迫ります。

(下中 一平)

社会科 第3学年「くらしのうつりかわり」
発見！地域の結びつき



地域を単なる生活空間ととらえている子どもたち。受け継がれている祭りなどの年中行事を調べ学習を通して、地域には過去の歴史や現在に生きる人々の結びつきがあるという見方の変容に迫ります。

(平川 純哉)

生活科 第2学年「ウインドカーをつくって あそぼう」
「おたすね」で気付きの質を高めます



「おたすね」は、事実を問う力・関係づける力を高めるとともに、課題をつくらせて再探究を促し、気づきの質を高めるものでもあります。そのための教師の方針を提案します。

(藤本 裕人)

体育科 第4学年「フットビー」
off the ballの動きが身に付く！



ゲーム領域が型で示されたことで、ボール操作が難しいサッカー型の授業が敬遠されがちになっています。そこで2次元で動くボールを足で操作しながら、ゴール型に大切な動きを身に付ける授業を提案します。

(西村 正之)

外国語活動 第6学年「Discover Japan」
自ら言葉を創り出す授業を提案！



英語って子どもたちにとっては未知なる言葉。しかし、実は身の回りに溢れている外来語などが手掛かりになるのです。海外の小学校との交流を通して「言葉を創って伝える」楽しさを味わわせます。

(前田 陽子)

公開授業Ⅱ

10:00 ~ 10:45

算数科 第5学年「面積」

この面積どうやって測るの？



「直線で囲まれていない図形の面積は求められない」とらえがちな子どもたち。面積をおよそとらえることは意外と難しいものです。操作活動や対話により概測の仕方を探っていく授業を提案します。

(増藤 孝成)

音楽科 第2学年「トルコ行進曲」
体で表す様子のひみつ



有名なベートーベンの「トルコ行進曲」。強弱のはっきりした曲に出会った子どもは、そこに面白さを感じているでしょう。感じたことを体の動きで表現させることで、曲の表す様子のひみつに迫っていきます。

(蒲地 悦子)

道徳 第1学年「ゆうきをだすと みんながえがお」
自分の生活に生きる道徳の時間とは！



「勇気を出して言おう」と思っても、状況によっては言えないことがあります。そこで、役割演技で役になりきり、生活経験を語っていくことを通して、勇気の勇気をつかみ出すのです。

(宮原 大輔)

総合 第6学年「何を伝えたいのだろう」
絵を根拠にポスターの意図を探索



ポスターには必ずメッセージがあります。文字のないポスターの絵を分析し、製作者の伝えたいことを読み取らせず、それを筋道立てて伝え合います。ポスターに込められる深い意味をとらえる授業を提案します。

(西澤 剛)

附属小の研究発表会 ここがポイント！

～子どもの姿をもとに「これからの授業」について 一緒に語り合いましょう！～

POINT ① 全ての教科等で「言語活動を大切にした授業」を提案します！

POINT ② 本校職員による授業研究会を公開します。

POINT ③ いつでも誰でもできる論理的な思考に着目した授業を公開します。
■4年「どっちにしようかな？」……………授業者 井上 竜作
■6年「何を伝えたいのだろう」……………授業者 西澤 剛

－研究主題－

豊かな「対話」で広がる創造的な学び（3年次）

～今問い直そう、よい授業を創り出す条件とは～

期日 平成27年2月13日(金)

会場 熊本大学教育学部附属小学校

内容 各教科等の授業公開・分科会
公開授業研究会

講演「『創造的な学び』に向けた授業研究」



講師



あき た き よ み
秋田 喜代美先生

東京大学大学院教育学研究科教授
博士（教育学）。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。
日本保育学会会長。日本読書学会会長。世界授業研究学会(WALS)副会長。

著書：『授業研究と学習過程』（放送大学教育振興会）
『学びの心理学：授業をデザインする』（左右社）
『子どもをはぐくむ授業づくり』（岩波書店）
『対話が生まれる教室』（教育開発研究所）

研究発表会申し込み締め切りは**2月6日(金)**です。よろしくお願いします。

ホームページ <http://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/~elem/> **熊大附属小** **検索**

熊本大学教育学部附属小学校 **研究だより VOL.41**

発行日 平成27年1月24日

編集・発行 熊本大学教育学部附属小学校 〒860-0081 熊本市中央区京町本丁5-12 TEL 096(356)2492 FAX 096(356)2499